総合教育センターだより

街路樹

発行　第　８０　号

平成２６年　２月　２４日（月）

いわき市総合教育センター

いわき市平字堂根町１－４

０２４６（２２）３７０５

聞き上手にする授業

～真剣に聞くための視点を与える～

「発表している人の顔も見ずに、ぼうっとしている子どもがいます。」

◆「なぜか、本当か、正しいか」を軸に◆

落語などの世界ではよく「芸は聴衆によって磨かれる」と言います。聞き手の反応は極めて重要です。いい発言を育てるには、まずいい聞き方を育てることです。しかし内容がよく分からず、自分の益になるとも思えない発言は、なかなか聞きたくなりません。

そこで、子どもに話を聞く「目的」を与えましょう。すべての聞き手に評価役をとらせます。言い直せば「分析的・批判的に聞く」ということになるでしょうか。要するに「なぜ」この人はこんな発言をするのか。「本当に」何が言いたいのか。その人の言っていることは「正しいのか」このような観点を持っていれば、どんな発言も退屈せずに集中して耳を傾けられます。

一番失礼なのは、人が発言している時に「どうでもいいや」という態度で聞くことです。形だけの拍手や「いいでーす」などという掛け声ではなく、相手の発言に対してその内容の当否や深浅などを、常に評価し続けるのが聞き手の作法です。

また、聞くことは自分の思考力や判断力を高める大きなチャンスでもあります。ですから子どもたちにも、次のように話をします。

〇なぜか　〇本当か　〇正しいか

「この3つをいつも頭の中において、人の話を聞きなさい。分からないことは尋ねなさい。おかしいと思うことは確かめなさい。間違いだと思うことは指摘しなさい。ぼんやりとどうでもいいやという態度で聞くのは最悪です。」

これは大人にも通用する聞き方の大原則。よい聞き手の育成は、発言技術の訓練以上に難しいものですから、折に触れ、繰り返し、一貫した姿勢で語り続けなければなりません。

もう一つ、教師にとって重要なのはこの3つの中の「なぜか」です。どんな誤答や奇答であっても、なぜこの子はこんな発言をするのか、こんな風に考えたのか、その問いかけが教師としての先入観を取り払い、子どもの心に迫る糸口になってくれます。

引用：野口流「授業の作法」より　野口芳宏：著（学陽書房）

「言語活動」を意識して取り入れるようになってきていますが、ややもすると話し手に主眼を置いてしまいがちです。話し手と同時に聞き手も育てることで、話合い活動がより充実するのではないでしょうか。

見通しを持った生徒指導

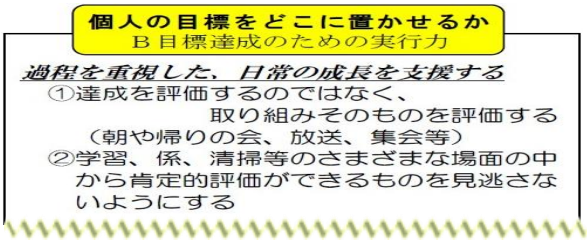
平成24・25年度調査研究委員会生徒指導部会の研究から、「生徒指導カレンダー」を紹介します。

小学校版・中学校版があり、月及び年間の見通しをもって指導にあたることができるように、ワンポイントアドバイスが示されています。

見出しは、月の重点を大きくつかむことができます。

〈　例　中学校版5月見出し　〉

また、生徒指導の4観点（「A 自己洞察・自律的態度」「B 目標達成のための実行力」「C 人間関係力」「D 自尊感情・自己肯定感」）に沿って、指導内容と方法、留意点が見やすくまとめられています。



〈例 中学校版5月「B 目標達成のための実行力」〉

「生徒指導カレンダー」は、新年度より、いわき市総合教育センターHPに掲載します。

生徒指導や学級経営にぜひご活用ください。

教育相談係から

～　声なき声を聞く　～

教育相談には、切実な悩みや相談が寄せられています。それは、やがて数字として記録されます。無機質な数字とはいっても、一件一件実に様々な問題が含まれています。

このように相談件数という形で顕在化し、悩みを表現出来た子がいる一方で、表現しない子や相談できていない子、つまり、数字にも表れない子が相当数いることも推測されるのです。

声なき声に耳を傾ける姿勢を持ちたいものです。見えないものを見る目を養いたいものです。